

## 防衛大学校本科第35期学生及び理工学研究科第26期学生 入校式における学校長式辞（昭和62年4月5日）

本日、ここに防衛大学校本科第35期学生及び理工学研究科第26期学生の入校式を挙げるに当たり、森防衛政務次官<sup>注(1)</sup>、山下技術研究本部長<sup>注(2)</sup>、種具陸上幕僚副長<sup>注(3)</sup>、松尾海上幕僚副長<sup>注(4)</sup>、谷航空幕僚副長<sup>注(5)</sup>、鈴木統合幕僚会議事務局長<sup>注(6)</sup>、東山横須賀地方総監<sup>注(7)</sup>をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長<sup>注(8)</sup>、川名市議会議長<sup>注(9)</sup>等多数来賓の御臨席を賜わり、防衛大学校としてまことに光栄に存じ、ここに教職員並びに学生一同に代り、厚くお礼申し上げます。また全国各地から、はるばる御来校の上、御臨席をいた



第5代学校長 夏目 晴雄

だきました御父兄の皆様方に対しても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

さて、本科入校生の諸君、諸君は北は北海道から、南は沖縄に至る全国1万人の受験生の中から、みごと難関を突破されて、本日の栄ある入校式に参列されたのであります。

厳しい環境のなか、諸君が自らの意思により、祖国防衛に身をもって当たらんとの気概を秘めて、校門をくぐって来られたことに対し、心か

- 
- 注(1) 森 清  
注(2) 山下 徹  
注(3) 種具正二郎（たねぐしょうじろう）  
注(4) 松尾 正  
注(5) 谷 篤志  
注(6) 鈴木英樹  
注(7) 東山収一郎  
注(8) 横山和夫  
注(9) 川名武雄

ら敬意を表し、本校の全教職員、全学生とともに、諸手を挙げて歓迎するものであります。我が防衛大学校の教育は、防衛庁設置法にも明らかのように「幹部自衛官となるべきものを教育訓練する」ことを目的としております。言葉をかえて申すならば、防衛大学校は現代における士官候補生教育を目的し、諸君は只今から、将来の幹部自衛官となるべき使命を与えられたのであります。したがって、本校の教育は、他の一般大学のそれと多くの共通点を持ちながらも、併せて他の大学には見られない特色を有するものであります。諸君は、この目的意識と使命観を堅確に持ちながら、これからの4年間、大いに研鑽し努力せられんことを要望いたします。

入校に当たり、学校長として次の三点を諸君に要望いたします。

第一に、諸君は将来、幹部自衛官となるべき学生として「優れた士官」を目指して努力することは勿論であります。その前に、まず「立派な社会人」としての修養・錬磨に心掛けていただきたいのであります。防衛大学校には、先輩の手によって作られた「学生綱領」というものがあります。それは、「廉恥」「真勇」「礼節」という三つの柱から成り立っておりますが、このモットーを実践するため、学生間における自主的な切磋琢磨を最も大切にしているところであります。この学生同士による自主自律の精神をもってする自己研鑽を目指す意味から、諸君は、入校と同時に校内の学生舎で団体生活を送るといふ、他の一般大学には見られない制度をとっております。特に、新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と相違するところから、当初は戸惑いや不安を覚えるかも知れません。しかし、1万4千人の諸君の先輩はそれを克服してきたのであります。こうした体験は、将来多くの部下を指揮統率するための幹部自衛官にふさわしい資質を養成する上で極めて大切なことでもあります。

諸君は素直な気持ちでこの団体生活に飛び込み、その雰囲気にも馴染み、指導教官の指導の下、上級生の率先垂範を見習い、自らの実践を通じて正しい躰を身につけ、将来の幹部自衛官としてふさわしい容儀、態度の持主になっていただきたいのであります。と同時に、より重要なことは、これが形だけ、体裁だけに終っては断じてならないということでもあります。「優れた士官」「立派な社会人」として自らを深めてゆく努力を怠ってはなりません。どうか、この4年間の小原台の生活を通じ、幅広く、奥行きのある人間形成に努めるよう、諸君の自主、積極的な向上心に強く期待するものであります。

第二に、諸君は大学生として勉学にいそしんでいただきたいということであります。先進各国における現下の士官候補生教育は、一般大学生と同等以上の知的水準と学力とをその前提としているのでありまして、我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会学系教育を主たる学業の内容としているのであります。防衛大学校の教育方針に、「広い視野を開き、科学的思考力を養う」とあり、これは将来有能な幹部自衛官であるためには、高度の学力、学識の保持者でなければ役に立たないばかりではなく、立派な社会人としても通用しない時代となっていることを銘記すべきであります。諸君は、幹部自衛官としての資質、技能の錬磨に励むことはもとよりであります。優れた教授陣を擁するこの防衛大学校において、これからの貴重な4年間、腰を据えて学問の研鑽に努められ、将来の大成に備えての伸展性を培われることを切に希望するものであります。

第三に、諸君は、体力、気力の錬成に努めていただきたいのであります。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、極限状況下にあつて、沈着・冷静な判断力・行動力、優れた統率力を発揮することはできません。防衛大学校は、教育方針の一つとして「学生全員の参加する体育活動及び各種の運動競技を奨励しており、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君は、何等かの校友会活動に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な幹部自衛官としての素地を培っていただきたいのであります。そして、これらの活動を通じ、小原台で流した青春の汗が、良き先輩、良き同期生、良き後輩の絆を固め、顧みて生涯における忘れ難い思い出となるよう心から祈るものであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。諸君は、この度特に選ばれて本校の研究科において、高度の科学技術の修得に専念される機会を与えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

諸君は、かつてそれぞれの大学において、基礎的な専門分野を履修されたのであります。その後、配置先の各部隊等では、当面の任務に忙殺され、学究の道から遠ざかることを余儀なくされていたことと思えます。この度、再び本校において、時間的余裕をもって、より高度の研鑽を積まれることは、諸君自身の飛躍のみならず、自衛隊の科学技術の進展に大きく寄与するものであります。

今や世界各国は、それぞれの科学技術の粋を尽して防衛力の近代化に努めておりますが、科学技術の立遅れが、国家の安全保障に由々しき影

響を及ぼすことに思いをいたしますとき、我が国将来の防衛科学技術の向上のため、諸君の若い頭脳に期待すること、まことに大きいものがあります。今後の精進努力を求めてやみません。

時は正に春爛漫の4月、陽光輝やく海原を眼下に収めたこの小原台に、祖国防衛の任務達成に向っての第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心より祈りつつ、私の式辞を終わります。